

造形表現力を高めるための創造的な教材開発による授業評価（その2） ～本学・保育学科1・2年生の実態から～

An Assessment of Lecture Effectiveness through the Development of Creative Teaching Materials Designed to Enhance Artistic Expression (Part 2)
—Based on the Observation of Freshmen and Sophomores of the Department of Childcare of this Institution—

(2013年3月31日受理)

角 田 みどり
Midori Sumida

Key words : 造形表現力, 教材開発, 授業評価

はじめに

前回の論文においても記述したが、保育者を目指す学生が、幼児の造形について確かな理解を深め、指導者としての資質や能力を磨きながら、実践的指導力を身につけることは非常に重要なことである。野村智子は、著書「幼児の造形」¹⁾の中で、幼児造形の指導者にとって特に重要な点を次の3点にしぼっている。

1. 保育の基本を踏まえて、幼児の造形を考える。
2. 造形活動の指導には、専門的な知識や技術が必要である。
3. 保育者自身が感性を磨き、創造的活動への関心を深める。

こうしたことを踏まえ、以下の点から本研究のテーマを設定した。

1. 「幼児造形」の授業において、上記3の「保育者自身の感性」の醸成を大切にしたいと講義を構築したいと考えた。
2. 近年の保育・教育現場における「幼児造形活動」として取り上げられる造形題材がパターン化したり（絵画）、安易な教材セット（工作）に頼ったりする傾向も見られることから、学生が「描きたい」「創りたい」「やってみよう」という意欲に燃え、表現活動を心から楽しむことができるような、より「創造的な教材」を開発したいと考えた。
3. 現代では、従来からの表現材料（絵画製作においてはクレヨン・パスなど）がかなり多様化し、非常に豊

かな造形環境に恵まれていることから、学生に出来るだけ新しい造形材料体験をさせたいと考えた。特に、環境教育に努めたい。また、指導者自身の造形能力を総合的に高めるために「総合造形題材」を取り上げ、体験させることで、発想力、構想力、表現力を総合的に高めたいと考えた。

研究の目的及び方法

以上を踏まえて、平成24年度の保育学科の必修科目「幼児造形」(1年生前期)及び選択科目「保育方法演習A」(1年生後期)の授業において、造形表現の「創造的な教材開発」を行い、その授業評価の分析と考察を通して、成果と課題を明らかにすることを目的とした。

研究の内容

1. 「造形表現力」の定義を明確にする。

「幼児造形」の指導者として、身につけさせたい「造形表現力」とは何かをまず明らかにし、それらの能力を高めることを前提とする。

2. 「創造的な教材」を開発する。

従来の保育・教育現場では取り扱われなかったような新しい視点での教材を開発する。その際、環境(Ecology)に配慮した視点を盛り込む。表現に積極的に生活廃材や身近雑材料を活用する。

3. 「創造的な教材開発」による評価を分析する。

学生による授業評価、「材料銀行」や「アート・ギャラリー」の取組から評価分析を行い、考察を加えて教材開発の課題を明らかにする。

研究の実際

1. 「造形表現力」とは何か

吉田泰男は、著書「美的教育原論」²⁾の中で、「表現過程から、造形表現力を見て、①着想・発想力、②構想力、③技術的能力、④評価・鑑賞力のような捉え方ができよう」と述べているように、「造形表現力」は大きく4つの視点で分けられる。

まず、「着想・発想力」とは、具体的には、「想を得る、ひらめく、思い浮かぶ、思いつく、考案する、(～から)ヒントを得る」(着想)力と「考え浮かぶ、考える、思いつく、発起する、考案する、考えつく」(発想)力である。

「着想」と「発想」はほぼ同義語であると考えられるが、初発にひらめいたり、思いつくのが着想であり、じっくり時間をかけて、考え出すのが発想であるというニュアンスの違いがある。

次に、「構想力」とは、「仕組む、設計する、計画する、デザインする、立案する、意図する、目論む」力である。

「着想・発想」の時点より一歩進んで、「構想」では、より鮮明なイメージを持ち、自分が表現したいイメージについて計画的に製作(制作)設計を立て、具体的にデザインを考案する力である。

「技術的能力」について、吉田は、同著の中で具体的に詳しく「技法」として列挙している。以下の通りである。

- 「描く、塗る、着色する、染める、にじます、ぼかす、はじく、濡らす、乾かす、流す」
- 「並べる」
- 「積む、重ねる」
- 「接着する」
- 「破る、ちぎる」
- 「丸める」
- 「巻く、結ぶ、包む」
- 「折る、たたむ」
- 「曲げる、ねじる」
- 「叩く、おす」
- 「切る、切り抜く」
- 「穴あけ、くりぬく」
- 「掘る」
- 「彫る」
- 「打つ、抜く」
- 「織る、編む」

これらの技法については、幼児の場合は、年齢とともに身体機能発達の違いに応じて、技法体験させることを配慮しなければならない。

最後に、「評価・鑑賞力」であるが、立原慶一の研究論文「主題表現法に基づく造形表現力と鑑賞及び評価能力育成に関する考察」³⁾において、「鑑賞力」「評価力」について、次のように述べられている。

「これまで鑑賞と評価の語がほぼ同じような意味で用いられてきたが、ここで能力上の違いを明確にするべく別々に定義される。鑑賞力とは、作品に織り込まれた美術的特質の意味を感受しうる能力、いわば作品を『見て意味や心情を感じる』力と考えられる。」また、「評価力とは、それを前提としつつも客観的な立場に立ち、作品の意味や心情が、一体いかなる表現方法を根拠に直観として画面に実現されているのか、を洞察する理性的な力である。」という定義をしている。いずれも、研ぎ澄まされた豊かな「感性」を基盤として、発揮される能力である。

上記のように、「造形表現能力」を捉え、「幼児造形」「保育方法演習A」の授業において、保育者を目指す学生の造形表現力をより一層高めるための創造的な教材開発を行った。

2. 「創造的な教材」を開発する。

保育者を目指す学生にとっては、幼児造形の指導者として、その造形表現力を高めるためには、いかに豊かな創作体験をさせるかが重要である。花篤實は著書「新造形表現」⁴⁾の中で、次のように述べている。

「要は、楽しく幅広く、豊かに、いろいろな材料経験、創作活動を重ねることによって、自己の感覚や感性を磨くことである。」「こうした経験を通して、ものの特性をつかみ、そこでの発想の方法や造形性、創造性をとらえられるようになるのである。それはまた、幼児の造形活動の指導にかかわるとき、その活動の中でそれらの特性の読み取りにつながり、生き生きとした表現活動を展開させる導路となっていく。」

今回も、学生たちが、これまでの小学校における「図画工作科」や中学校・高等学校における「美術」の教育においても、かつて経験したことのないような創造的な教材を開発し、その体験を通して、心の底から「造形表

現は楽しい」と学生に実感させることが重要であると考えた。

1) 創造的な教材開発事例①

「額縁付きサインペンの絵」

保育現場で扱う絵画製作の描画材料として、「サインペン」がある。この描画材料には、水性と油性があるが、ともに幼児にとっては非常に身近なものであり、手の巧緻性が十分とは言えない幼児にとって扱い易いと言える。しかし、一旦描くと消えない、また、身体につくと消し去るのはシンナーを用いないといけないという難点もある。だが、それ以上に発色は鮮やかで、幼児の目を引き、パスやクレヨンとは異なる美しさも感じられる。

40年近く前からこの色彩豊かなサインペンの絵に取り組んでいる人物がいる。静岡県にある肢体不自由児療護施設「ねむの木学園」の学園長である宮城まり子氏である。宮城学園長は入所する子どもたちの感性を豊かに育みながら、サインペンで描く絵など、芸術表現活動を重視し、長年取り組まれている。海外での美術展開催を重ね、2007年6月に六本木ヒルズの森アーツセンターで「ねむの木のこどもたちとまり子展」を開催している。特別な指導をしている訳ではないが、子どもたちが受け止めたありのままをサインペンで素直に表現した作品が素晴らしい。

○描画材料としての「サインペン」の魅力

- ・発色がよく、彩度が高い。
- ・塗りむらや塗り跡ができるが、それを表現に生かすこともできる。
- ・手の巧緻性が未発達な幼児でも、あまり力を入れずに描くことができる。
- ・乾燥が速く、描画直後に画面に触っても支障はない。
一般的には、サインペンを使用して、線描をすることは多くても、面描することは普段あまり経験がないことから、新たな体験として表現活動を楽しむことができると考えた。

○授業の展開

- ①参考作品として「ねむの木学園画集」を鑑賞した。
どの作品も鮮やかで美しく、学生に大きなインパク

トを与え、創作意欲を触発する。

- ②A4サイズの画用紙に、作品のイメージを鉛筆またはサインペンで、直接線描あるいは面描する。
- ③全体の色調を配慮しながら、サインペンで丁寧に塗り込む。塗り跡を生かさない場合には、同じ方向に塗るなどの留意をするよう指示する。
しながら、つくりたいものを表現する。また、もんだり、平らにしたりして、表現に変化をつける。
- ④完成した作品を共同展示し、学生相互が作品を鑑賞できる場を設定する。

（準備物：A4白画用紙、18色油性サインペン、18色水性サインペン）

○「段ボール紙の額縁」のもつ魅力

サインペンによる絵画が完成したら、続いて、「段ボール紙による額縁」を製作する。

段ボール紙は身近に、しかも大量に入手できる有益な表現材料である。「カラオケ効果」という言葉があるように、絵画作品に額を付けることにより、作品をより素晴らしく映えるようにすることが出来る。ただし、A4の段ボール紙の中側を切り抜く作業は、幼児には困難であり、保育現場で実際に使用する場合には、あらかじめ教師がカッターナイフで切断し、準備しておくことが望ましい。

○学生の作品から



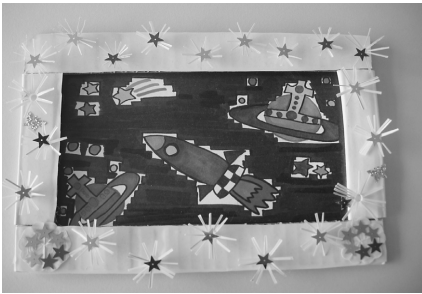
〈まつぼっくりを使用し画面との調和をねらった額縁〉

幼稚園実習の時期は、秋の季節であることから、木の実やまつぼっくりなどの自然材を使用した造形活動を実践した学生も多くいたが、額縁に利用するのも面白い。最近では、幼児向けの木工ポンドも開発されていることから、こうした自然材を接着することも可能となる。



〈ちぎり紙で華やかさを出した額縁〉

幼児の手の巧緻性が劣っている場合でも、簡単に画用紙をちぎることはでき、絵画作品を派手な感じで飾ることができる。



〈ストローを開いて星の輝きを表した額縁〉

ストローは身近な日用品であり、はさみで簡単に切れることから、年長児には操作が可能である。これも、やはり幼児用ボンドを使用すると、線接着は可能である。



〈フェルト布やバランで周囲の風景を効果的に表現した額縁〉

お寿司などに使用されるバランは、草を表現するには最適の廃材利用である。



〈絵が生きるよう綿で雲を表した額縁〉

綿は雲を表現するには効果的な材料であり、空の絵には最適である。(接着は木工ボンド)



〈カラフルなファスナーのユニークな額縁〉

意表をつく材料であるが、身近材料としての着眼点がユニークである。



〈周囲に貝殻を貼り海辺を連想させる額縁〉

収集した貝殻を周囲に貼るのも美しい表現となる。海辺などへ遠足に出かけた時に、様々な種類の貝殻を集めて、造形材料として保管しておくことは大切である。



〈スパンコールのひもで周囲を飾った輝きのある額縁〉

スパンコールのチェーンは、百円均一ショップで販売されている。光る材料として目を引き、ユニークな額縁となる。

○教材の評価（学生アンケートより）

〈サインペンで描く絵について〉

- ・色ムラになりやすかったので、出来るだけムラができないように頑張った。くーピーや色鉛筆では出せない鮮やかさが出て、驚いた。

- ・サインペンだけで塗る絵はあまりしたことがなかったので、貴重な体験となった。実際に幼児に描かせる時は、大きい紙にみんなで描いて、一つの作品をつくってみたい。
- ・原色の色合いがきれいで、くっきりした分かりやすい絵になった。絵の具のように色を混ぜて色をつくることは出来ないで、そのままの色合いで、つくった感があふれる作品になったと思う。
- ・白にしたい部分は、色を塗らずに残しておくなど、材料を生かしたお絵描きができそうだ。3・4歳の子もたちと一緒に、きれいに色を塗るといこともふくめて、サインペンで作品をつくってみたい。
- ・クレヨンやパスを使って描いたり、塗ったりするのは全然違っただけで、絵の仕上がりもまったく異なった感じになって、同じ描く作業でも、こんなに違うのかと驚いた。4・5歳児と一緒に好きな絵をサインペンで描いて遊び、クレヨンやパスとの違いを比較したりしながら、遊びながら描けたらいいなと思った。

〈段ボール紙でつくる額縁について〉

- ・子どもたちにも自分が描いた絵に、自分で額をつくってほしいと思った。親子でつくるのも楽しいのではないかな。母の日や父の日のプレゼントにもなると思う。
- ・額縁の色を考える時に、中の絵を考慮してつくることができた。絵を描いても、額縁まで用意したことはなかったけれど、額を漬けるだけで、豪華に見えたり、かっこよく見えたりするのがすごいと思った。また、お金をかけずに、段ボール紙を使用して額が出来上がったのがすばらしいと思った。世界でたった一つのオリジナルな額が出来たのがよかった。
- ・段ボール紙を形よく切るのが少し難しかったけれど、子どもの時にもどったみたいで楽しかった。つくる前は、普通の段ボール紙だったのが、完成すると、本当の額縁みたいに見えてきれいだった。画用紙に動物や家族、果物などの絵と一緒に描いた後、子どもたちと一緒に額縁づくりをすると、子どもたちも喜ぶと思う。
- ・段ボール紙の上にテープを貼ったり、リボンやビーズなどたくさんの材料を準備してくれていたの、つくるのが楽しかった。一人一人の額を見ると、それぞれ

の額に個性が出ていて楽しかった。

- ・段ボール紙は、どんな形にも切れて、改めて優れた造形材料だと思った。いろんなものに使いたい。

2) 創造的な教材開発事例②

「ラメのりアートを楽しもう！」～その2～

「ラメのり」というのは、もともとは接着剤で、幼児が楽しみながら、ものの接着ができるように「液体のり」にキラキラ輝く「ラメ」を混ぜ込んだ材料である。

これを接着剤としてではなく、描画材料として使用し、乾燥させて一つの完成品として仕上げることは意外性があり、楽しさは大きい。前回もラメのりを取り上げて題材開発を行ったが、

今回は、前回の塩化ビニルシートを使用するのではなく、木材にラメのりで描画し、その色彩効果を探った。

○造形材料としての「ラメのり」の魅力

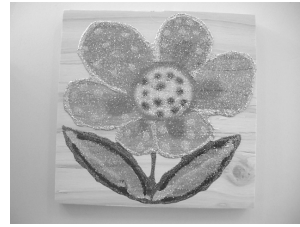
- ・100円ショップで販売されており、安価に購入できる。
- ・使用されている「ラメ」の種類が多く、「メタリック・カラー」「パステル・カラー」「蛍光カラー」「パール・カラー」などを組み合わせて使用することで、多様な表現が楽しめる。
- ・チューブに入っており、容器の腹を押しながら簡単に描画できる。幼児の場合は、弱い力でも描画できるように先を少々切り取って、口の穴を大きくする配慮が必要である。
- ・乾燥させると透明感があり、硬く強固になり、非常に軽いので展示が可能となる。

○授業の展開

- ①杉田豊の色彩感豊かな絵画作品を鑑賞し、自分の描きたい絵を発想する。非常にカラフルであるので、創作意欲を触発される。
- ②材料としてのラメのりの特性を知る。
- ③下絵を描く。幼児の場合には、既成のイラストやデザイン画も使用可。（準備物：ラメのり各色、板材20cm×20cm）
- ④ラメのりで描いた直後は、乾いていないので触らないようにする注意を与える。
- ⑤夏場なら3～4日、冬場なら1週間程乾燥させる。）

⑥全員の作品を共同展示し、鑑賞する。

○製作の様子



〈花〉



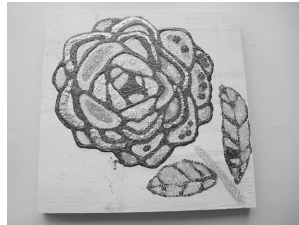
〈チョウ〉

○学生の作品から

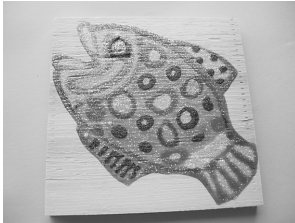
「ラメのリアートを楽しもう！」



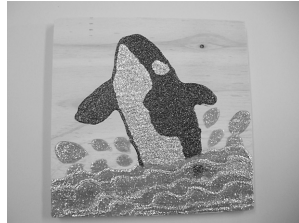
〈ライオン〉



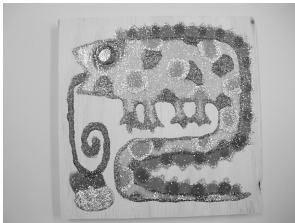
〈バラ〉



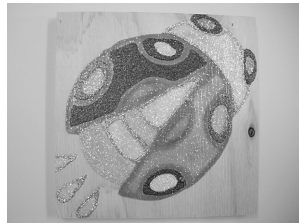
〈魚〉



〈クジラ〉



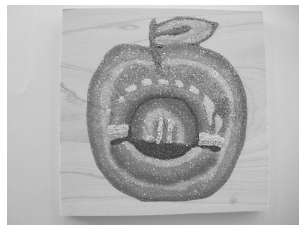
〈カメレオン〉



〈てんとう虫〉



〈ウサギ〉



〈りんご〉

○教材の評価（学生アンケートより）

- ・ラメのりは、キラキラ輝いて大変きれいだった。隙間なくラメのりを塗ると、きれいになるのが分かった。塗った時と乾いた時の厚みが変化していた。
- ・板の上に好きな絵をラメのりで描いたら、立体的になってキラキラ輝いて、本当にきれいだった。自分の作品がとても上手に見えた。子どもたちにもお体験させたい。
- ・ラメのりがなかなか出にくいので、幼児の時は口を大きく開けないといけないと思った。たくさんラメのりを出すと、厚みがあって、にぎやかできれいになった。チューブを押す時に力があるので、4・5歳児がよいと思った。
- ・こんな描画材料は一度も経験したことがなかったので、興味が湧き、夢中になって取り組むことができた。メタリックカラーがキラキラしてははっきりとした線描きができてよかった。
- ・これまで使ったことのない材料だったので、大変楽しく、きれいな作品ができてよかった。幼児にも体験させたいと思った。

3) 創造的な教材開発事例③

総合造形教材「夢のお店屋さんをつくろう！」

保育者を目指す学生の造形能力を高めるために、発想力、構想力、表現技能、独創性などの能力を総合的に身につけることができる教材開発として、「夢のお店屋さんをつくろう！」を実践した。

「お店屋さん」については、普段の保育現場でも取り上げる題材であるが、それをミニチュアにして創作するという活動は、その可愛らしさのために、製作者が夢中になれる題材であると言える。

○造形題材としての「お店屋さん」の魅力

人間は、「小さいモノ」には本能的に惹かれる心理を持ち合わせており、自分が開きたいお店を思い描きながら創り上げるミニ・ワールドには、ほとんどの学生がはまり込み、毎日放課後にも残って製作を続け、根気よく完成までこぎ着ける過程において、発想力、構想力、表現技能、独創性などの総合的な造形能力を一層高めることができる。幼稚園実習に出向いた学生が園よりドールハウスの製作を依頼され、この授業を生かして、幼児が遊べるハウスを製作することができたと伝えてくれた。

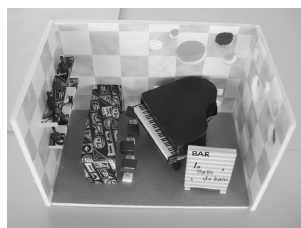
○授業の展開

- ①参考作品を鑑賞し、自分が開きたいお店を構想し、アイデアスケッチを描く。
- ②つくりたいお店の基本構造をスチレンボードでつくる。（カッターナイフで切る。）
- ③基本構造(床・壁)ができたら、窓や入り口を開ける。床シートや壁紙を貼る。
- ④お店に必要な家具や装飾品を製作する。
- ⑤お店で売る商品や小物を製作する。
- ⑥お店の看板やテナントを製作する。

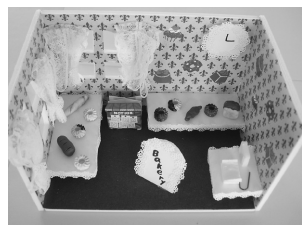
○学生の作品から



〈本屋さん〉



〈楽器屋さん〉



〈パン屋さん〉



〈駄菓子屋さん〉



〈お風呂屋さん〉



〈喫茶店さん〉

○教材の評価（学生アンケートより）

- ・お茶屋さんをつかった。和のイメージを出したかったので、茶道の部屋にした。一番がんばったのは、和傘で、折り紙をジグザグに折って傘にするのは難しかった。
- ・スチレンボードという材料を初めて使用したが、小さな家具とか、大変便利な材料だということがよく分かった。とても楽しい授業だった。
- ・最初は大変かなと思ってつくり始めたが、やり始めてみると、次第に楽しくてたまらなく夢中になれた。みんなの作品のクオリティが高くて驚いたけど、造形能力が磨かれて、貴重な体験となった。

4) 創造的な教材開発事例④

◆「本物そっくりシリーズ」の授業その1 ～大好きなスイーツをつくろう！～

粘土を使用した立体造形を体験する題材として、「本物そっくりシリーズ」を実践した。まず、はじめに子どもたちはもちろん、学生たちも大好きな「スイーツ」に挑戦した。大好物であるだけに見るからに美味しそうな円形、三角形、四角形、円柱と様々なケーキが次々に誕生した。

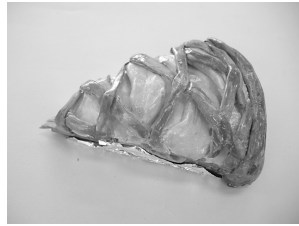
○製作の様子



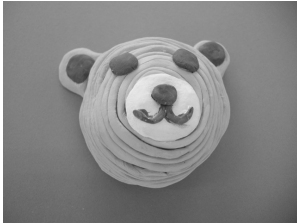
○学生の作品から



〈いちごケーキ〉



〈アップルパイ〉



〈マロンケーキ〉



〈フルーツケーキ〉



〈ロールケーキ〉



〈ローズケーキ〉

何種類ものスイーツが出来上がったが、どれも完成度が高く、本物の質感や輝きがあって、鑑賞者にも非常に好評だった。これも夢中になれる教材であると思われる。

◆「本物そっくりシリーズ」の授業その2

～お寿司をつくろう！～

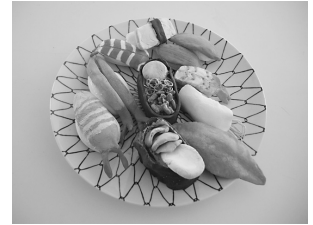
粘土を使用した立体造形表現の「本物そっくりシリーズ」の第2弾として、「お寿司をつくろう！」の実践をした。保育現場では、お店屋さんごっごの延長で、このようなお寿司を小麦粉粘土で製作することがあるが、時間的な関係から、きめの細かい「パルプ粘土」を使用した。導入段階の指導においては、新聞の折り込み広告の「お寿司チラシ」が大変役に立った。

出来上がると、この作品もまた、お寿司のネタが本物に近い質感で製作され、本物のお皿に盛りつけると、鑑賞した幼児も大変喜んでた。

○製作の様子



○学生の作品から



5) 造形的環境整備のための取組事例①

「材料銀行」の増設

豊かな造形表現を導き、表現材料の幅を広げるために、身近にある生活廃材や雑材料をBOXの中に収集し、造形教室前の廊下に設置して、「材料銀行」と名付けた。コピー用紙の使用済みの赤い空箱を活用した材料BOX「材料銀行」は、造形の表現材料がクレヨン・パス・水彩絵の具のような描画材料や、画用紙・色画用紙・模造紙・色紙・セロファン紙などの面材料に限定されるのではなく、身近にある日用品の中にも造形表現を一層自由に、さらに豊かにできるモノがあると再認識させるのに有効である。

また、一度廃棄や処分されたモノを、造形材料としてリサイクル、リユースすることは環境教育(Ecorogikal Education)にもつながり、有意義であると考えます。

○「材料銀行」その1



○新設・増設した「材料銀行」

その2



その3



○「材料銀行」の評価（学生アンケートより）

- ・「材料銀行」で、リサイクルに出すような物を貯めておいて使用し、無駄にしないということを教わった。どんな小さな物でも、造形材料になり、捨ててしまわずに取っておこうと思うようになった。
- ・身近な材料から、素敵な造形作品が生まれてすごいと思った。物を再利用することでエコにもつながるし、想像力もわくし、完成した時の感動が大きいと思った。
- ・「材料銀行」に出合ってから、普段の生活の中で、これは使えるぞと目を向けるようになった。下手に材料をすぐに買うのではなく、材料銀行の中から、自分の表したい表現に合う材料を発見した時の喜びは大きかった。
- ・「材料銀行」は物を大切に作る心の現れだと思った。身近な材料があんなに便利だとは思ってもいなかった。少しでも使える材料があれば捨てずに、自分なりの材料銀行に貯めておこうと思った。
- ・「造形は、材料集めから始まる」といつも先生が言われたように、家から使える材料はないかと探して材料銀行に入れておき、今日は何を使おうかというワクワク感を持続させることで、アイデアが浮かび、素敵な

作品づくりが出来たと思っている。

○「材料銀行」をフルに活用した作品例

「干支の貼り絵～共同製作～」より

保育学科の学生たちが中心となって活動する造形活動サークル「虹色アートの仲間たち」が取り組んだ共同製作で、年が改まり不要になる古カレンダーを活用して、縦4m×横3mの巨大な貼り絵の絵画製作に挑戦した。完成した作品は、本館3階から吊し、2階ロビーから鑑賞できるようにした。新春にふさわしい作品となった。（部員16名）

【使用した材料】

古カレンダー、ガチャガチャ、赤色ロール紙カラークロロフォルム紙、キラキラテープ、ガチャガチャ・ケース、等



6) その他の取組事例①

◆保育学科造形授業の学生作品展の開催

教室から生まれた学生の創造性あふれる造形作品を一室に展示し、鑑賞していただくと同時に外部からの授業評価もかねて、大学祭「白鷺祭」の時期に合わせて、保育学科「アート・ギャラリー」を開催した。3号館3階の造形教室を開放し、所狭しと約800点の作品を展示した。

また、今年度は、中国学園創立50周年記念事業として、新1号館ロビーにおいて「保育学科造形展」を開催した。実施概要は、次の通りである。

◆「アート・ギャラリー」

①開催期間

- 平成24年10月13日（土）10時～17時
- 平成24年10月14日（日）9時～15時

②開催場所

○保育学科 3号館3階 3303教室

③入場者数

○第一日目・第二日目合計 約550名

④展示作品

10題材 約800点

○展示の様子（一部抜粋）



〈自然材でつくろう！〉



〈収穫祭をしよう！〉



〈お寿司をつくろう！〉



〈夢のマイショップをつくろう！〉



〈世界で一冊だけのオリジナル絵本〉

○「アート・ギャラリー」の評価（鑑賞者アンケートより）

- ・目をひくような素敵なお作品ばかりで感激した。2歳の子どもと一緒に参加させていただいたが、野菜のクオリティが高くて、子どもに好評だった。
- ・絵本はどれも楽しく、お店も家に持って帰りたいぐらい可愛かった。個性的で、保育学科の学生さんたちの質の高さを感じた。
- ・2年間、がんばって学習してこられた学生さんたちの成果が一堂に見られてよかった。良い先生になってくれると期待している。
- ・ケーキのクリームがすばらしくよく出ていた。絵本もよく工夫されていて、全部読みたかったぐらい。どの作品も丁寧さが感じられ、発想がすごいと思った。
- ・子どもたちが夢中になって遊べる題材ばかりだった。大人も楽しめたと思う。
- ・平素から、子どもたちに豊かな発想力を身につけてやらねばと思っているが、本日のギャラリーに来させていただき、学生さん方のすごい発想力と想像力の高さに、いっぱい刺激をいただいた。私も頑張らねばと思った。
- ・今日は懐かしかった！（卒業生）保育の場に生かせるヒントをたくさんいただいた。ありがとうございます。
- ・保育士の仕事をしているが、参考にさせていただける作品が多く見られた。何よりも学生さん方が楽しんで授業と向き合っているのが感じられて、嬉しく思った。
- ・絵本、木の実、お店、お寿司、どれも可愛くて、心が癒された。
- ・近所の人に車に乗せてもらって見に来たが、今日の展示作品は大人も子どもも触れたくなるような可愛いものばかり。素敵なお作品に感動した。絵本が気に入った。

お寿司、マイショップも最高だった。来年もまた、来たい！

◆創立50周年記念事業「保育学科造形展」

①開催期間

○平成25年2月9日（土）～2月15日（土）

②開催場所

○新1号館 ロビー

○展示の様子

大学祭で展示した作品の中から精選し、一部加えた造形展であったので、新1号館のロビーに鑑賞しやすいように工夫して展示を行った。

2月9日には、新1号館に隣接する完成したばかりの体育館で、「第31回保育学科発表会」が、2月11日には、「新体育館・新1号館落成式」が執り行われ、多数の来学者で、ロビーが賑わった。多数の参観者や他学科の方々から、造形展の学生作品に対し、好評をいただいた。



6) その他の取組

◆地域の銀行とのコラボによる展覧会の開催（百十四銀行内に学生作品を展示）

学校地域にある銀行が開業10周年記念の年ということで、総務課を通して、学生の成果物の展示依頼があり、お受けした。丁度、通学路でもあることから、学生の中には、自分の作品を眺めに入店した人もいた。地域連携が求められる中、こうした形でコラボが実現できたのは有り難いことだった。

学生の作品（「大好きなスイーツ」、「スクラッチ」「壁面構成」）が展示されるのは、店内の雰囲気をよくし、来客の気持ちも和み、大変よかったと銀行サイドからは御礼の言葉をいただいた。

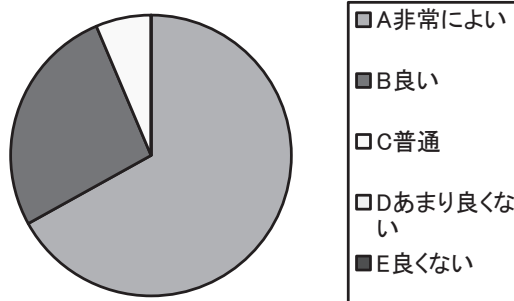
3. 「創造的な教材開発」による評価を分析する。

日々の授業において、出来るだけ創造的に教材開発を手がけ、保育者を目指す学生たちが将来保育・教育現場に出向いた時に、即実践できるような教材、これまでの小学校図画工作や中学校・高等学校の美術において経験してきた教材とは異なったタイプの講義を構築していった。

ここで、学生たちがこれらの授業（教材開発）に対し、どのように「授業評価」をしたか、示したい。（「教材開発」に関係の評価を示す）

○平成24年度前期「幼児造形」授業評価より（保育学科1年生135名集計）

1) 授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか？



A: 66.6%

B: 26.6%

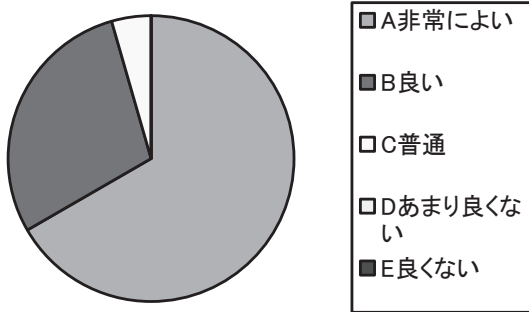
C: 6.5%

D: 0%

E: 0%

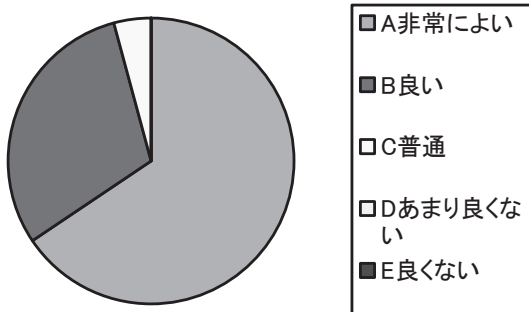
A+B: 93.2%

2) 授業の内容はあなたにとって興味あるものでしたか？



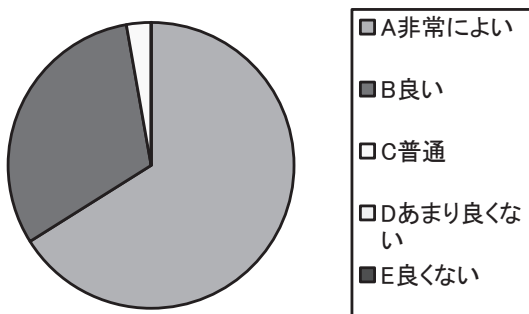
A: 66.2% B: 28.8% C: 5.0%
D: 0% E: 0% A+B: 95.0%

3) あなたは、この授業で新しい知識や技術が身についたと思いますか？



A: 65.5% B: 30.2% C: 4.3%
D: 0% E: 0% A+B: 95.7%

4) あなたは、この授業を全体的にどのように評価しますか？



A: 66.2% B: 30.9% C: 2.9%
D: 0% E: 0% A+B: 97.1%

その他の6項目（シラバスに関する2項目を除く）に関しても、ほぼ同様の数値が出ており、学生にとって、

新しい造形教育の視点で創造的に開発した教材を中心的に扱った授業については、「非常に良い」「良い」のプラスの評価をあわせると、平均95%の高い評価を得たことがわかる。

しかし、学生の人数が増えた分だけ、Aが微減し、Bが微増しているのが気になった。中には、造形が苦手と堂々と宣言する学生も見られた。学生の自由記述による評価では、多くの学生たちが、造形の授業を楽しみ、意欲的に取り組んだことが分かる。

「楽しい」と感じた要因としては、「創造的な開発教材」の持つ魅力（新鮮さ、意外性、豊かな発想、未経験の技法や材料など）があるからではないだろうか。また、保育学科に入学した学生全般に表現活動の能力や資質が高く、心から楽しむことが出来たのではないかと考える。

考 察

学生による授業評価の結果から、「創造的な開発教材」を多く取り入れた授業に対する受け止めは、今回も前述の通り概ね良好であった。ここで、開発教材を多く取り入れた造形の授業の成果について、次のようにまとめた。

1. 楽しく幅広く、豊かに、いろいろな材料体験や創作活動を重ねることができた。

殆どの学生が「造形活動は楽しい」と実感しており、これまでは苦手意識が強かった学生も「初めて造形が好きになった」と応えている。

これまで経験したことのない「材料体験・技法体験」は、より主体的で意欲的な創造活動を引き出すことができる契機となった。

2. 様々な材料の特性をつかみ、それを生かしながら発想し、どのように指導したらよいかの具体的方法を体得することを通して、保育者が求められる造形表現力を高めることが出来た。

今回の開発教材で扱った材料は、従来の造形材料として一般的であったものより、学生にとってはむしろ目新しく、これまで造形材料として扱った経験がなかっただけに、その扱い方を

体験することにより、指導者の立場になった時の指導のポイントを自ら体感することができた。

3. 「材料」についての見方が変わり、廃材として処理されるどんな生活上の身近材料でも、すばらしい造形作品を生み出す可能性があることを認識することができ、環境教育として、より一層「モノ」を大切にするリサイクル・リユースの精神を身につけることが出来た。

学生は、授業科目「幼児造形」「保育方法演習A」の受講回数が多くなるにつれて、「材料銀行」のフタを開けては、表現に活かせる材料を物色していた。「材料銀行」にある様々な生活廃材や身近雑材料を活用することで、表現は一層自由になり、豊かな表現となっていく。保育現場に向いた時にも、こうした身近雑材料を保管し、その活用が促進されると思われる。

おわりに

本研究を通して、造形表現の指導において、改めて、「指導者こそ、まず創造的であれ！」ということを確認できた。保育者を目指す学生にとって、造形表現力が重要な資質・能力の一つであることを再確認しつつ、今後も、保育・教育の現場で発揮される高い造形表現力を身につけられるよう、継続してさらに「創造的な教材開発」を手がたいと考える。幼児を取り巻く環境が大きく変わる中で、どのような造形教育が望ましいのか、また保育者の指導方法を明らかにしつつ、一人一人の学生が身につけていく「造形表現力」の細かい分析・研究については、今後も継続して研究を深めていきたいと考えている。

引用文献

- 1) 野村智子・中谷孝子編著：「幼児の造形」—造形活動による子どもの育ち—保育出版社，2009，p3
- 2) 吉田泰男（上越教育大学教授）著：「美的教育原論」，文化書房博文社，1991，p234
- 3) 立原慶一研究論文：「主題表現法に基づく造形表現力と鑑賞及び評価能力育成に関する考察」（宮城教育大学紀要第44巻），2009，p86

- 4) 花篤實・岡田敬吾編著：「新造形表現」（実技編），三晃書房，2009，p9

参考文献

- 1) 辻田嘉邦著：「造形・美術の教育評価」，日本文教出版，2002
- 2) 森上史朗他編著：「保育内容 表現」，光生館，1996
- 3) 花篤實監修，永守基樹・清原知二編集：「幼児造形教育の基礎知識」，建白社，1999
- 4) 井島勉（京都大学教授）著，「美術教育の理念」，光生館，1969
- 5) 大阪児童美術研究会編：「新美術教育基本用語辞典」，明治図書，1982
- 6) 福井昭雄・高浦浩・板良敷敏著：「楽しい造形活動の育て方」，東京書籍，1982
- 7) 東山明編著：「表現活動を豊かにする絵画・製作・造形あそび指導百課」，ひかりのくに，2007
- 8) 富山典子・岩本克子共著：「保育に役立つ絵画あそび技法百科」，ひかりのくに，2006
- 9) 竹井史著：「作品展・親子イベントのイメージが膨らむ製作あそび百科」，ひかりのくに，2006
- 10) 東山明監修，竹井史編：「幼児の造形ワークショップ」（平面造形編），明治図書，2004
- 11) 東山明監修：「幼児の造形ワークショップ」（基本と展開編），明治図書，2008
- 12) あいち造形教育研究会著：「子どもの表現力をグングン引き出す造形活動ハンドブック」，明治図書，2010

